

## 福祉嫌いの私から福祉と向き合う私へ

活動先：NPO 法人 地域福祉サポートちた

クラス：原田 正樹 先生

### 1. 自分の成長と気づき

#### 1) サービスラーニングまでの自分

私は、サービスラーニングを受講するまで、福祉が嫌いだった。人と接するよりも、モノを触っていたほうが好きで、社会福祉士ではなく、義士装具士になりたいと考えていた。福祉大学に入学し、講義では福祉の良い側面と同時に悪い側面の話を聞いた。日に日に福祉を仕事にするのに疑問を持ち始め、講義も聞いていて面白くなかった。二年生のゼミ選びでは、面倒くさそうという理由でサービスラーニングが真っ先に候補から無くなった。そんな私がサービスラーニングを受講したのは、このまま社会福祉を学び続けるか、転学して物づくりの道に行くか見極めるためだった。

#### 2) サービスラーニング計画作り

そんなもやもやも直ぐに無くなった。NPO 現場見学バスツアーを体験し、福祉の現場を見ることが出来た。NPO の現場を見た感動もあったが何より NPO 現場見学バスツアーのような事業を行えるサポートちたに感動した。組織と組織をつなげる中間支援は、他の NPO とは全く違う NPO で自分たちに何が出来るかとても楽しみで、時間を割いてプランニングを夢中で行った。最初の計画書を作成し、サポートちたに持っていくと、沢山の駄目だしをされ自分たちのプランは再構成する必要になった。もう一度、今までの活動を振り返ると、NPO 現場見学バスツアーで、訪問する予定の NPO を事前に web で調べることが出来なかったことに気づいた。インターネットで情報を得ることが出来なければ、直接 NPO に行くか、口コミで聞くしかその NPO の情報を知ることが出来ないと考え、ホームページを持っていない会員団体のホームページ作りを行うことにした。自分たちがやりたいことを相手に押し付けるのではなく、ニーズにあったことをすることが大切だと学んだ。

#### 3) サービスラーニングの活動中

私はサポートちたのスタッフが、本当に他団体のことを理解されていたことに驚いた。取材をするにあたって情報を集めることが出来なかったのも、サポートちたのスタッフの方に取材先の NPO について聞いていたが、言葉を詰まらせること無く自分のことを話すように聞きたいことを話していただいた。取材に行く先々でも他団体の話を聴くことがあり、私はネットワーク（つながり）を中心に福祉を考えるようになり、地域包括支援センターでネットワークキングを行いたいという夢を持つようになった。

#### 4) サービスラーニング活動後

私たちの活動一つ一つは、利用者さんの笑顔につながる活動や他の NPO での活動が多く自分たちの活動は本当に意味のあるもの疑心暗鬼になった。グループ内で何度も話し合ったが答えは見つからず、活動が終わった直後の学びを書くことが難しくとても悩んだ。

しかし、振り返りを何度も行いグループ研究をすることに学びが出てきた。中でも NPO マネジメントセミナーの受講の学びが大きかった。マネジメントセミナーの受講は、活動でもなんでもなくただ話を聴くということでサポートちたのメリットも何もならないと考えていた。振り返りをしていると、NPO マネジメントセミナーは「人材育成研修事業」一つであることに気づいた。私たちも人材育成研修事業の対象で、マネジメントセミナーで学んだことを社会に出たときに活かす事は、サポートちたのニーズにあるのだと気がついた。

私は、サービスマネジメントの活動を通して、社会福祉を選んで本当に良かったと考えることが出来るようになった。地域福祉にも興味を持ち、自分のやりたいことを見つけた。サービスマネジメント終盤は本当に大変だったが、夢を持ったことで苦になる事なくむしろ楽しんで出来た。そして、サービスマネジメントだけでなく、講義への取り組む姿勢も変わっていった。

## 2. 活動を通して見えてきた地域課題や社会課題

取材先や現場体験、NPO 現場見学バスツアーで訪問した NPO で「居場所作り」という言葉を度々聴くことがあった。サポートちたも居場所作りに力を入れていくと話された。私は、デイサービスを行っている NPO を数カ所回った。そこで、介護保険を使わないデイサービスがあった。居場所というのは、介護保険を必要とする人だけでなく、介護保険を使わない人にも必要なことだ。介護保険を使わないデイサービスは介護保険を使うデイサービスと比べると収益は低い。収益が低いと若い世代を雇用する事が難しく、スタッフの高齢化による後継者問題が発生してきている。しかし、収益を上げるには新しい事業や制度を使った事業を行う必要があるが、それは各団体が持つ理念に反することがある。理念に反することなく、収益を上げ後継者問題を解決するには個々の団体だけでは困難だ。そこで、知多半島のネットワークを活用し他団体と情報交換し、みんなで考えることが必要だ。知多半島は、ゆるやかなネットワークでつながっている。ゆるやかであるため、個々の団体の負担は最小限で済むが、つながりが強い地域と希薄な地域がある。これは、友人関係と似ており、積極的に交流を図った人は友人が沢山出来るが、自分のことで精いっぱいの方は友人が少ないこともある。友人が多いと人生は豊かになるとあるように、NPO と NPO がたくさんつながることによって、活動がより盛んになるのではないかな。

## 3. おわりに

最後に、活動でお世話になりました全ての方々、特に地域福祉サポートちたの方々にお礼申し上げます。来年度は、地域福祉計画に関わっていくゼミを選び、この活動での貴重な体験を大いに活かしていきたいと思っております。そして、福祉だけでなく他分野、日本だけでなく世界に視野を広げて学んでいきたいと考えています。